



for a living planet®

WWF Japan Annual Report 2008-2009



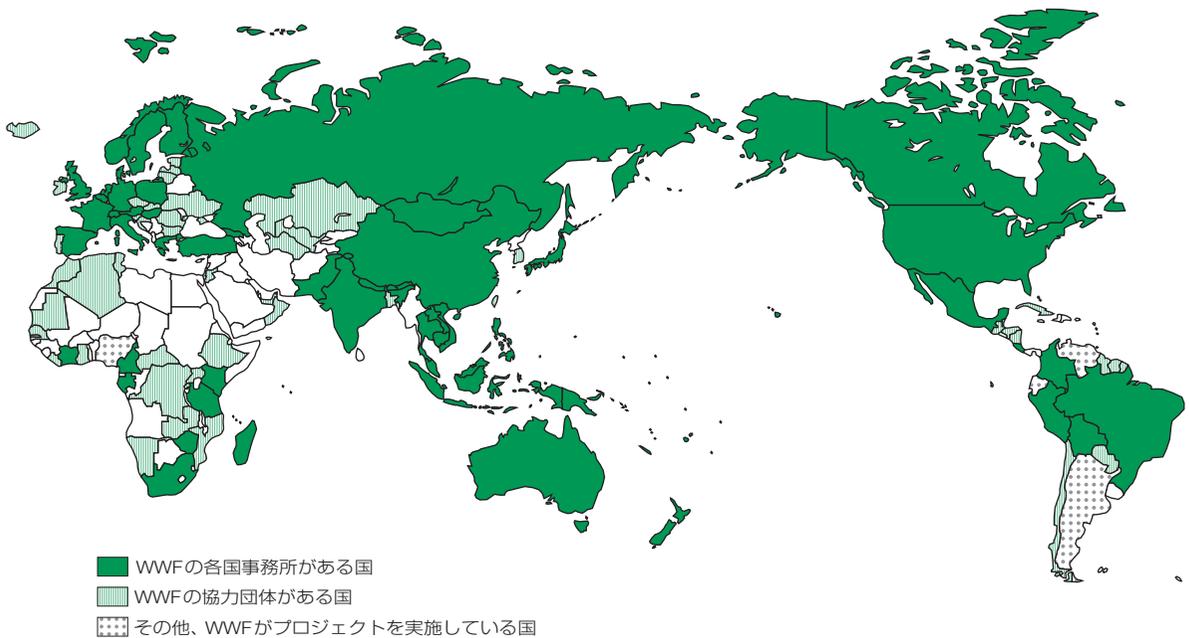
©Wild Wonders of Europe / Orsolya Hearberg / WWF

WWF Japan Annual Report 2008-2009



世界の自然を守るWWFのネットワーク

WWFは、世界約100カ国で活動している地球環境保全団体です。



WWF（世界自然保護基金）は、1961年にスイスで設立されました。当初の活動は、ジャイアントパンダやマウンテンゴリラ、トラ、アフリカゾウといった絶滅の危機にある野生動物の保護が中心でした。しかし、野生動物を守るためには、その動物が生きるための自然環境も守られなければ、本当の意味で保護が実現したとは言えません。また、多くの生命が関わり合いながら生きる世界、すなわち「生物多様性」を保全しなければ、人も「資源」という

名で自然から受けている豊かな恩恵を、いつか失う日が来ることでしょう。

1980年代から、WWFは動物保護から自然環境の保全へと活動範囲を広げました。以来、世界各地で研究者、市民団体、企業、行政、地域の人々と協力して、幅広い分野でさまざまな環境問題の解決のために力を注いできました。

人と自然が調和して生きられる未来を築くこと。それがWWFの目指す環境保全活動です。



2008年度年次報告に寄せて

WWFジャパン 事務局長
樋口隆昌



WWFに対しまして、常日頃よりご支援を賜り、誠にありがとうございます。また、昨年5月の四川大地震発生の際には、緊急支援の呼びかけに対して目標金額を上回るご寄付を賜り、改めて、ご支援に厚く御礼申し上げます。

昨年度は、「生物多様性基本法」の施行、7月のG8洞爺湖サミット開催など環境に対する関心が高まる中、活動としては、南西諸島での重要サンゴ礁群集域154カ所を抽出、一枚の「重要サンゴ群集マップ」にまとめたり、責任ある林産物調達の一環として、「林産物調達チェックリスト」を策定しました。また、長年支援してきた京都府機船底曳網漁連が、MSC（海洋管理協議会）の漁業認証をアジアで初めて取得しました。海外では、イン

ドネシアや極東ロシアの森林保全、黄海での生態系保全等の活動を継続しているほか、気候変動問題でも、WWFネットワークや内外の環境NGOなどと連携して、政策提言、企業や個人への働きかけなどを積極的にこなして参りました。

2009年12月には京都議定書後の温室効果ガス削減約束を取り決める、国連気候変動枠組条約第15回締約国会議がコペンハーゲンで開催されますし、2010年10月には名古屋で、第10回生物多様性条約締約国会議が開催される予定であり、地球環境対策にとって正念場となります。WWFではネットワークを挙げてこうした課題に取り組んで参りますので、今後とも、会員、寄付者の皆様には、引き続きご理解とご支援を宜しくお願いいたします。

Index	2008年度年次報告に寄せて	2
	活動報告.....	3
	収支報告	
	WWFネットワーク収支報告.....	9
	WWFジャパン収支報告.....	10
	資金調達報告.....	11
	WWFジャパン役員名簿.....	18

WWFジャパン 年次報告書 2008 / 2009

2009年9月1日発行

発行人：樋口隆昌
編集・執筆：WWFジャパン広報担当
アート・ディレクション：SONICBANG CO.,

◎本誌掲載記事、写真、イラスト等の無断転載はお断りいたします。
◎本誌は日本製紙株式会社、日本紙通商株式会社、寶守紙業株式会社のご寄付によるFSC認証紙を使用しています。

本誌掲載の活動報告および収支決算は、2009年6月のWWFジャパン理事会で承認された報告内容、およびWWFインターナショナルの年間報告等を基にまとめたものです。

2008年度 WWFジャパン 活動報告



©Michel GUNTHER / WWF-Canon



地球温暖化

最も関心の高い環境問題となった地球温暖化ですが、問題への理解や危機感、未だに十分に共有されておらず、解決に向けた交渉も難航を極めています。WWFジャパンは、世界のWWFネットワークの一員として、積極的な対策を提言しています。

◎新たな国際枠組みに向け、国際交渉に参加

2009年12月にデンマークで開かれる国連会議に向け、国際交渉が加速しています。この会議は「京都議定書」の第一約束期間が終了した後、世界が温暖化防止に向けどのような約束を交わすかを定める重要な会議です。WWFジャ

パンは、2008年度に4回の国連会合に出席し、情報収集と政策提言活動を行ないました。また、日本国内では、複雑な国際交渉を解説する記者向けの勉強会を開始。より多くの中立的報道を目指しています。

◎国内の温暖化対策へ提言

2008年10月、日本国内で、排出量取引制度の「試行的実施」が開始されました。排出量取引制度は、WWFジャパンが近年、国内でもっとも力を入れてきた温暖化対策です。この制度は、産業界の反対が強く国内の議論が進まずに

いましたが、2008年に入り、経済産業省、環境省、民主党、自民党で、それぞれ検討されるようになりました。WWFジャパンは、経産省の研究會に委員として参加し、本格的な制度設計に対する必要な条件などを提案しました。

©Fritz PolKING / WWF



森林

日本で利用される木材の主要な生産国であるインドネシア、ロシアの森林保全を軸に活動を展開し、海外の森林の現状の普及活動に注力しています。併せて、森林生態系に配慮した紙や木材の流通を目指し、信頼できる森林認証制度の普及・活用を推進しています。

◎インドネシア：スマトラ島の熱帯林保護に向け合意が成立

WWFジャパンは現地で森林保全活動を支援すると同時に、日本企業に対し、環境や地域社会に配慮した責任ある林産物の購入を促しています。こうした活動が認められたこともあり、2008年8月、インドネシア政府は同島のテッ

ソ・ニロ国立公園を大幅に拡大すると宣言。9月には、スマトラ島のすべての州知事とインドネシア政府の4省が、島の生態系を回復させ、保護価値の高い地域を守ることで合意しました。

◎ロシア:「ヒョウの森」を守る活動を推進

2007年に開始した、極東ロシアの森と地域の暮らしを紹介する交流企画“Russian Near East”の一環として、2008年度は、絶滅の危機にあるアムールヒョウのすむ森に近いパラバシュ村の子供たちの撮影した写真を基に日本各地で写真展を開催しました。

2006年度より行なっているアムールヒョウの生息調査も継続しており、森の減少の主な原因である森林火災を防ぐため、防火帯を計15km新設。消防隊のトレーニングなどへの支援も行ないました。

◎日本:責任ある林産物の購入を促すチェックリストを開発

日本には、FSC(森林管理協議会)などの第三者機関による森林認証製品はまだ少ないのが現状です。そこで、2008年度は、目の前の木材や紙製品が、どれだけ森林生態系や地域社会に配慮して生産されたかを把握できる「林産物調達

チェックリスト」を開発しました。これは、紙や木材を扱う企業が、林産物の生産履歴を遡って原産地を把握し、その森の管理の適切性を自己評価できるツールです。こうしたツールの開発は、環境NGOとしては日本初の試みでした。

©Chris MARAIS / WWF-Canon

有害化学物質

日常生活の中で使われている化学物質の中には、人体や生態系に悪影響を及ぼす有害なものもあります。WWF日本は、より適切な法体系を求める政策提言や、一般への情報発信に努めています。



◎先進的な海外の対策を紹介

有害な影響が顕在化して初めて規制が行なわれるような、従来型の化学物質管理を根本的に見直し、予防原則を基盤とした新たな化学物質管理のあり方が求められています。この動きの中で策定された、化学物質管理のための新しい

国際的な戦略「SAICM(国際化学物質管理戦略)」を日本に紹介することに力を入れました。2008年9月には、イギリスから講師を招き、身の回りの有害化学物質問題を市民の立場から考えるシンポジウムを開催しました。

©Brent Stirton / Getty Images

海洋

WWF日本は、人の暮らしとともに海を守る活動を展開しています。海の恵みを生み出す母体である、沿岸地域の生物多様性の保全、さらに、世界で需要が急速に高まっている水産資源の、持続可能な利用を目指した活動に取り組んでいます。



◎アジア第一号のMSC漁業認証誕生を支援

WWFは、水産物の持続可能な利用を目指し、海洋環境に配慮した漁業を推進しています。その形の一つとしてMSCの認証制度の情報発信と認証事例の実現に力を注いできました。その

一環として支援してきた、京都府機船底曳網漁業連合会のズワイガニとアカガレイ漁が、2008年9月、国内そしてアジア初のMSC漁業認証を取得しました。

◎湿地(ウェットランド)の保全:「ラムサール条約」締約国会議に参加

世界の重要なウェットランド保全に関するラムサール条約の第10回締約国会議が、2008年10~11月に韓国で行なわれました。長年に渡りウェットランド保全に尽力してきたWWF

ジャパンも会議にスタッフを派遣。過去15年にわたる活動の成果を発表。これまでの活動事例を収録した冊子の配布や、日本と韓国の団体と協働し、世界へ活動成果を発信しました。

◎黄海の保全：生物多様性評価報告書を作成

黄海の自然環境を調査し、特に重要な海域を明らかにして保全に繋げる活動の一環として、黄海にすむ多様な生物の中で、特に注目すべき129種の生物の重要な生息地を明らかにした「生物多様性評価報告書」を、2008年のラム

サール条約締約国会議で発表しました。

また、2009年1月には北京で、日中韓から黄海の海洋生態系保全を行なっている3団体が集い、WWFの助成を受けた活動の成果と課題を共有する交流会を開催しました。

©Martin HARVEY / WWF-Canon



トラフィック イーストアジア ジャパン

野生生物にとって有害な取引をなくすため、希少種や資源の保全、法体制の整備などを手がける国際機関トラフィックネットワークの一員として、日本が関係するさまざまな野生生物の取引問題に取り組んでいます。

◎水産：違法・無規制・無報告な漁業の実態を把握

資源量の減少が懸念されるクロマグロの、国内における販売状況を把握するとともに、WWF地中海オフィスとともにDNA解析を実施。地中海で違法漁獲されたクロマグロが、日本市場に流れていないかを調査しました。ま

た、2010年に開催される、野生生物の過剰な国際取引を規制する「ワシントン条約」の第15回締約国会議に向け、クロマグロやサメ類、宝石サンゴなどの作業部会メンバーとして調査を開始しました。

◎林産：違法取引をなくすため、税関への支援を開始

違法取引を減少させる上で、国境の監視役を担う税関の役割は非常に大切です。2008年度は輸出国と輸入国の税関機能を強化することで、違法な木材取引を減少させることを目的と

した「アジア税関プロジェクト」の第一段階が終了しました。このプロジェクトから得られた成果をもとに、日本の税関や政府向けにセミナーやロビー活動を開始しました。

◎希少種の保護：日本への合法的な象牙輸入に対応

2008年、特別の許可のもと、9年ぶりにアフリカで合法的な象牙の販売が行なわれました。この象牙は、今年、日本と中国へ輸入されます。そこで、消費者やマスコミへ正しい理解を促すために、ウェブを中心に象牙に関する情

報提供に努めました。象牙の問題については、ワシントン条約事務局から委託を受けて国内の市場調査も開始しており、2009年度も継続する予定です。

©WWF Japan



琵琶湖

2004年から、WWFジャパンは株式会社ブリヂストンと共同で、琵琶湖流域の水環境を、地域住民、行政、企業が一体となって保全する「WWF・ブリヂストン びわ湖生命の水プロジェクト」を行なっています。

◎地域主体の保全活動へと成長

2008年度は、WWFが関係者と共に目指してきたラムサール条約における琵琶湖の登録地域の拡大が実現しました。また、琵琶湖お魚ネットワークが2004年～2007年に展開した市民参加による魚類調査を基に、市民や行政と協力し

て、優先保全地域を明らかにしました。これは、滋賀県の「湖国の守りたい自然100選」保全政策に反映され、その一つ彦根・多賀地域で、ブリヂストン彦根工場の社員を中心とした自然観察会の開催と支援を継続しています。

南西諸島

WWFジャパンが20年にわたり携わってきた南西諸島の自然保護活動は、フィールド拠点のある石垣島・白保のサンゴ礁や、沖縄島の希少生物の生息地保全に留まらず、南西諸島全域の生物多様性保全へ向けた提言活動へと発展しています。



◎WWFサンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」の活動

沖縄県石垣島で地域主体のサンゴ礁保全活動を促進している「しらほサンゴ村」は、自然環境と調和した村づくりを支援しています。2008年は、サンゴ村が月2回開催している「白保日曜日」が、県などの主催する「離島フェア2008島おこし奨励賞」を受賞しました。自然の素材を利用した伝統的な手技や郷土食の特産

品化を通じ、地域の活性化に繋がっています。また、定期的に白保海域周辺調査を実施。人の活動や新石垣空港建設に伴う、海への赤土流出状況や生物多様性の現状を地元ボランティアと共に調べてサンゴ礁の現状を把握し、地域づくりや行政施策への提言を行ないました。

◎ジュゴン保護：沖縄の海とジュゴンの危機をアピール

WWFジャパンは2008年10月、スペインで開催されたIUCN（国際自然保護連合）第4回世界自然保護会議に、他の保護団体と共に、国際的に絶滅が懸念されるジュゴン保護に関する提議を行ない、賛成多数で採択されました。ジュ

ゴンの生息域である沖縄島の大浦湾では、他の環境団体と共にアオサンゴ群落の調査を実施。サンゴ礁の規模と重要性、この海域で計画されている米軍普天間飛行場代替施設の移設による悪影響の恐れを指摘しました。

◎南西諸島のさまざまな場所で生物調査を実施

2006年から実施中の「南西諸島生物多様性評価(生きものマップ)プロジェクト」では、絶滅が心配されていたオキナワトゲネズミの30年ぶりの捕獲に成功した調査をはじめ、各島々での生物調査を実施しました。南大東島での甲殻類の新種発見や、海藻・藻類や貝類、ウミガ

メ類などの固有種・絶滅危機種の新たな生息地発見につながる調査を実施し、今後の保全対策の基礎情報を集めました。また、重要なサンゴ群集がある海域を調査、重要なサンゴ群集域を選定し、その内容を一枚の地図にまとめました。

野生生物

国内の生物多様性の保全ため、WWFジャパンは、2008年6月に施行された生物多様性基本法の成立を後押ししたほか、種の保存法や自然公園法などの改善を国に強く働きかけています。また、特に緊急性が高いと考えられる地域の自然保護活動については、地域の取り組みを支援しています。



◎四国のツキノワグマ保護を要求

WWFジャパンは、特に絶滅の危機が高いとされる、四国のツキノワグマ個体群の保護・調査活動を支援しています。2009年1月、国内でクマの保護問題に取り組んでいる研究者や団体と連名で、国や、生息地の県知事に対し、保

護を求める要望書を提出しました。この要望書は、現状の「国指定剣山系鳥獣保護区」を拡大し、国と地方自治体が連携して、長期的な視野に立った計画的な保護管理施策を立案、実施することを求めるものです。

WWFジャパンの活動報告の詳細は、<http://www.wwf.or.jp/aboutwwf/japan/report/> 右記のウェブサイトをご覧ください。

■ 緊急寄付を募り、四川の震災復興を支援

2008年5月12日に中国四川省で発生した大地震は、ジャイアントパンダの生息地にも大きな被害を及ぼしました。WWF中国は、地震の被害で一時停止していた保護区におけるパトロールやモニタリング活動の早期再開を図るとともに、保護区に隣接する地域の人々の救済と復興も支援しています。こうした活動を応援す

るため、WWFジャパンでは6月から9月まで緊急寄付を募りました。また、パンダショップでも支援つき商品「パンダタンブラー」を販売。おかげさまで、合わせて1,040万円を、現地へ届けることができました。被災地では現在、野生パンダの被害状況の調査や、「環境に配慮した復興計画」が進められています。

■ ホッキョクグマ保護活動への資金提供

毎年11月から12月にかけてイオンのグループ各社が店頭で展開されているクリスマスラッピングキャンペーン募金で、今年はWWFのホッキョクグマ保護活動に2,400万円強の資金が提供されました。北極圏の保全活動はWWFがネットワーク全体で重点的に推進しているプログラムの一つです。そのシンボルともいえるホッキョクグマについてはこれまで総合的な保全計画が無く、WWFでは生息地での調査活動と共に、2009年3月に生息域5カ国（ロシア・カナダ・アメリカ・デンマーク・ノルウェー）の政府を集めた「ホッキョクグマサミット」を

開催し、政府レベルで北極圏全域のアクションプランを策定するとの方合意を取り付けました。



アラスカでオスのホッキョクグマの体重を測定するWWFスタッフとヘリコプターのパイロット

©Sylvia RUBLI / WWF-Canon



WWFエコ・パートナーズ事業

WWFジャパンは、1971年の設立当初から、日本各地で自然保護活動に取り組む研究者や市民グループに対する支援を行ってきました。

これがWWFエコ・パートナーズ事業（旧・WWF自然保護助成事業）です。2008年度は7つの事業に対し800万円を助成しました。

2008年度WWFエコ・パートナーズ事業

第一期 助成先	活動タイトル	
奄美哺乳類研究会	奄美大島の野生化ヤギに関する基礎的研究	135万円
ラムサールCOP10のための日本NGOネットワーク	ラムサール条約COP10に向けてのNGOシンポジウム・ワークショップの開催	140万円
特定非営利活動法人 FoE Japan	知ろうまろう生物多様性～アムールトラねっと	125万円

第二期 助成先	活動タイトル	
日本クロツラヘラサギネットワーク	希少種クロツラヘラサギの保全に関する調査活動と年次報告開催	65万円
気候ネットワーク	気候保護法案制定に向けたNGO連携の市民立法活動	140万円
ジュゴン保護キャンペーンセンター	沖縄ジュゴン保護区づくりキャンペーン	130万円
仲西美佐子	休耕田活用による生活排水浄化システムの社会実験	65万円

世界の WWFの活動

～WWFインターナショナル
“Annual Review 2008”より抜粋



WWFは約100カ国でさまざまなプロジェクトを実施しています。
その中からトピックを2つお届けします。

©Juan Carlos DEL OLMO CASTILLEJO / WWF-Spain

地球温暖化

温暖化の影響が明らかになるにつれ、世界中の人々が立場を越えて協力し、この脅威に立ち向かわなくてはならないという認識が広まっています。2009年12月に開催される、温暖化に関する国連会議に向け、WWFはネットワークを挙げて、政策提言活動を行なっています。



◎ヒマラヤ山脈の氷河を調査

ヒマラヤ山脈を覆う氷河は、何百万年もの間、地域の生命を支える水源としての役割を果たしてきましたが、近年は減少傾向が目立ちます。そこでWWFは現在、温暖化がヒマラヤの氷河にどのような影響を与えているかを計るため、

インドとネパールで、氷河や、その融解水が流入する河川の調査を行なっています。この調査結果は、河川の水量や流速の変化が、流域の自然や人の暮らしにどのような影響を与えるかを知るためにも役立つと期待されています。

©N.C.TURNER / WWF-Canon

森林保全

現在、人間活動が原因で、世界中のあらゆる地域で生物多様性の劣化が進んでいます。WWFは、絶滅の危機にある野生生物や生息地の保全、水資源の効率的な利用、そして水産物や林産物をはじめとした自然資源の適切な管理を進めるため、多くの利害関係者と協力して世界各国で活動しています。



◎アフリカ中部の持続可能な森林管理を推進

WWFは、アフリカ中部のコンゴ盆地で、類人猿やゾウを始めとした希少種や、森林および淡水生態系の保全活動を行なっています。コンゴ民主共和国政府に環境保全と適切な土地利用計画について助言しているほか、持続可能な森林資源の利用を進める組織 CAFTNの設立を支

援してきました。その結果、現在コンゴ盆地では300万ヘクタールもの森林がFSC（森林管理協議会）の認証を取得しています。WWFは、これからもCAFTNの活動を支援すると共に、ラムサール条約に登録されている、コンゴ共和国内の広大な湿地の保全にも力を入れてゆきます。

WWFインターナショナルの活動報告の詳細は、<http://www.panda.org/> 右記のウェブサイトをご覧ください。

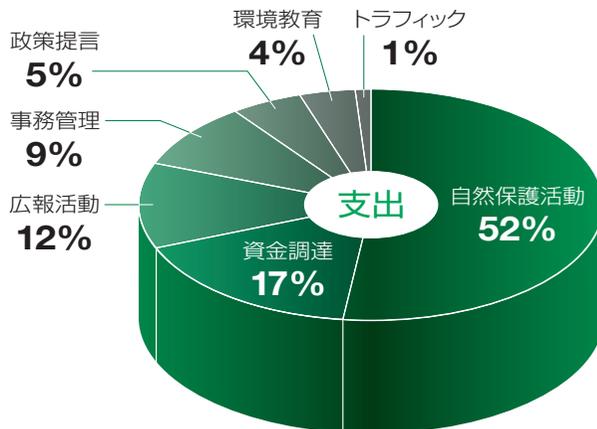
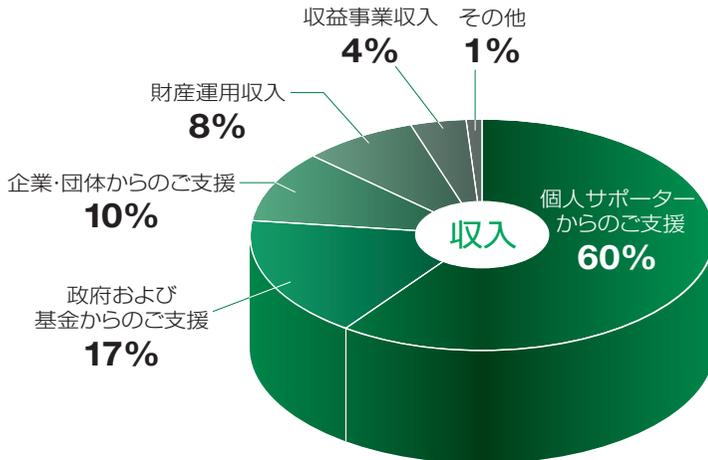
2008年度 収支報告

WWFネットワーク全体の収支報告 (2007年7月～2008年6月)

収入……4億7,700万ユーロ (約595億円*)

支出……4億3,000万ユーロ (約573億円*)

*2009年6月22日現在の為替レート
(1ユーロ=133.2円)にて換算

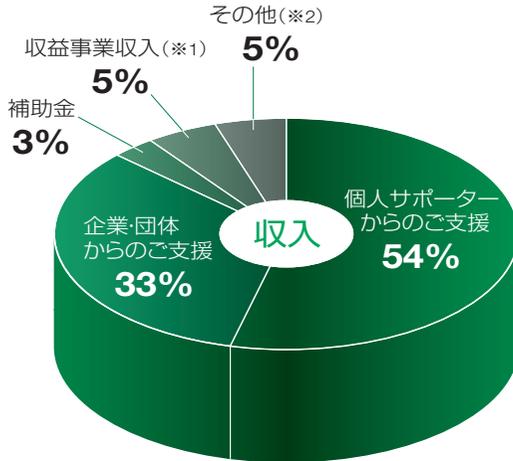


WWFの活動は、個人、企業など、さまざまな支援者（サポーター）により支えられています。WWFネットワークでは、ご支援くださる皆さまのご希望を尊重しつつ、優先して取り組むべき課題に資金を活用することで、効果的な活動を行なうとともに、定期的に正確な報告を約束するため、外部の会計検査官による監査などを受け、厳しい財務管理を実施しています。

世界の皆さまから頂いている継続したご支援と信頼は、WWFの活動を支える最も重要な礎です。長年にわたり、多くの自然保護活動を支え、目標を達成するための大きな力となっています。

WWFジャパンの収支報告 (2008年4月～2009年3月)

活動収入……8億4,941万円
活動支出……7億5,484万円

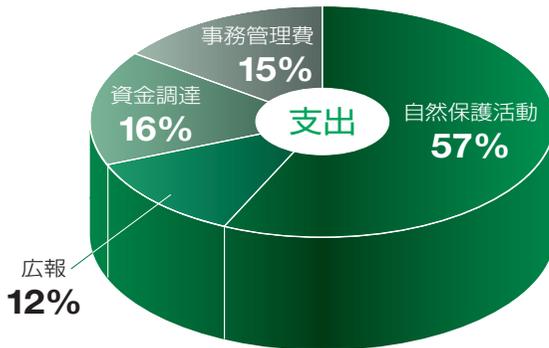


(※1) 「収益事業収入」はバンドショップやライセンス事業などの収益事業のうち、自然保護活動のために充当した金額のみを計上しています。
(※2) 収入の「その他」は、利息収入およびその他雑収入です。

[個人からのご支援の内訳]

会費	2億 404万円	45%
寄付	1億8,825万円	41%
募金	6,402万円	14%
合計	4億5,631万円	100%

(万円未満四捨五入)



[自然保護活動の内訳]

本部拠出金	3,264万円	8%
森林	9,276万円	22%
淡水生態系	1,240万円	3%
海洋	2,347万円	5%
Priority Places(南西諸島・黄海・ポルネオ)	1億1,319万円	26%
野生生物・トラフィック	7,167万円	17%
地球温暖化	4,471万円	10%
有害化学物質	1,565万円	4%
エコパートナーズ事業	807万円	2%
その他	1,335万円	3%
合計	4億2,791万円	100%

(万円未満四捨五入)

[WWFジャパン 2008年度]

総収入：10億456万円 / 総支出：10億257万円

総収入・総支出はグラフの活動収支にそれぞれ下記の収支を加えた金額です。

● 特定預金取崩分	1億4,405万円	前年度から特定の目的で繰越された預金を取崩した金額です。
● その他収入	1,110万円	収益事業会計からの資金の移動を示す「元入金戻り収入」です。
● 特定預金繰越分	2億3,287万円	次年度以降へ特定の目的で繰越した金額です。
● その他支出	1,486万円	固定資産取得のための支出です。

WWFジャパンへのご支援は、日本が関係する国内外の環境保全に役立てられているほか、一部が本部(WWF インターナショナル)へ送金され、広く国際的な活動に活用されています。

この収支報告は支援金の使途をわかりやすくするため、決算の数字を主な活動ごとに集計し直したものです。より詳しい決算資料および会計監査報告は、ウェブサイトで公開しています。

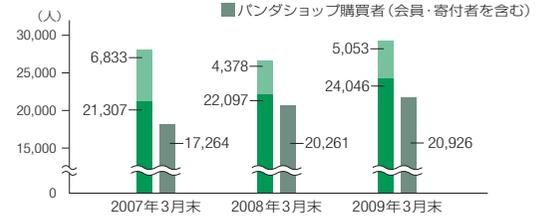
<http://www.wwf.or.jp/aboutwwf/japan/report/>



個人サポーターからのご支援

2008年度は、10月以降、景気が急激に悪化したにもかかわらず、個人サポーターの皆様からの安定したご支援によって、活動を力強く支えていただきました。また、より多くの方々から支持をいただくという事は、単に資金的支援だけではなく、情報を共有し、ともに行動することによって、世の中に与える影響を大きくすることができます。WWFジャパンは、2008年度より、これまで以上に積極的なサポーター拡大活動を開始しました。

◎サポーター数の推移



※個人サポーターの定義：それぞれの時点から過去2年間に会員期間が存在する会員、または入金があった寄付者・購買者

◎「WWFカード」利用者(会員・寄付者等を含む)

11,666人

(2009年3月末現在)

「WWFカード」は、利用金額の0.5%相当額が、発行元である株式会社クレディセゾンからWWFに寄付されるクレジットカードです。

主な寄付実績

当会からのさまざまな呼びかけに、2008年度もたくさんのご支援をお寄せいただきました。とくに四川大地震直後の緊急支援のお願いには、会員の皆さまからもたくさんのご支援をお寄せいただきました。また、遺産からのご寄付もいただきました。

◎寄付キャンペーン	6月「崩れゆく世界」(温暖化指定)	2,646件 / 16,534,741円
	12月「森に命の灯をともしよう。」(極東ロシア森林指定)	3,561件 / 21,461,516円
◎中国ジャイアントパンダ保護区・緊急支援指定寄付		1,518件 / 10,596,513円
◎「しらほサンゴ村」指定寄付		397件 / 4,145,336円
◎遺産からのご寄付		4件 / 97,664,023円

その他の会員系の活動

◎会員向けツアー (エコツアー会社(有)リボン主催)

第2回ボルネオ島ホームステイ体験エコツアー(2008年5月22日~28日) / マレーシア領サバ州キナバタンガン川流域の小さな漁村、ピリット村を拠点に、WWFが森林再生プロジェクトの一環として行なっているホームステイプログラムに、5人のサポーターの方が参加されました。

第2回八重山諸島体験エコツアー(2008年10月23日~28日) / 八重山諸島2島を巡るエコツアーに、8人のサポーターの方が参加されました。石垣島白保では、シュノーケルによるサンゴ礁観察のほか、赤土流出を防ぐための月桃植えボランティアを、西表島では伝統行事“節祭(シチ)”への参加や、カヤック等による自然観察を体験しました。

※これまで実施した会員向けツアーのレポートをホームページでご覧いただけます。
(<http://www.wwf.or.jp/>「パンダの広場」または「しらほサンゴ村」のページから)



◎会員バッジリニューアル

2009年春、10年ぶりに会員バッジのデザインを変更しました。それを機会に既存の会員の方向けに新バッジ寄付キャンペーンを行ない、たくさんのお申込をいただきました。



◎目指せ10万人! WWF入会キャンペーン2008

2008年11月~12月、地球温暖化をテーマに入会キャンペーンを展開しました。オグルヴィ・ジャパン・グループの協力を得て制作したキャンペーンサイト「北の果ての物語」を始め、ダイレクトメールなどのプロモーションにより、約1,000人の新サポーターにご参加いただきました。

募金によるご支援



WWFジャパンは、不特定多数の方からお寄せいただいたご支援を「募金」と呼び、特定の個人や法人からの「寄付」とは区別しております。2008年度も、全国の動物園、水族館、遊園地、博物館、動物病院、飲食店、衣料品店、雑貨・小物販売店、スーパーマーケット・コンビニエンスストア、学校、会社・事業所、宿泊施設など約2,700件の協力者に、募金箱や入会パンフレットを常時設置していただきました。また、街頭募金や各種イベントでの募金箱の設置やチャリティー販売など、約170件の期間を限定した募金活動からのご支援をいただきました。

WWFジャパンでは、クレジットカード利用によるポイントからの募金や毎月の給与からの社員募金など、企業活動に関連したご支援をいただいています。自然保護や環境保全に関する情報提供を通して企業が社員または会員などへ普及啓発ができることや、マッチング寄付により企業とその社員や、その会員と一緒に社会貢献できるといった理由から、2008年度はポイント寄付や社員募金などからのご支援が急増しています。

総額20万円以上の募金ご協力例（企業／団体／個人）

あいおい損害保険株式会社「ゆにぞん募金」	社員による募金
株式会社アトム	各店舗内で募金箱設置
アフラック日本社社員厚生会「One Hundred Club」	社員厚生会による社員からの募金
ALSOKありがとう運動	社員などによる募金
イオン各社	お客様による募金
大阪市天王寺動植物公園事務所	施設内で募金箱設置
沖縄県高校生代表者会議	沖縄県立高校の生徒による募金活動
カスミグループ	各店舗内で募金箱設置ほか
刈谷 光一（株式会社刈谷進盛堂）	社内などで募金箱設置
生活協同組合コープとうきょう	組合員による商品注文のしくみを通じた募金 および店舗内で募金箱設置
株式会社ココストアイスト（コンビニエンスストア）	各店舗内で募金箱設置
株式会社ジェーシービー	クレジットカード会員からのポイントによる募金
株式会社資生堂「SHISEIDO社会貢献くらぶ-花椿基金-」	社員による募金
財団法人静岡市動物園協会	施設内で募金箱設置
株式会社ソシエ・ワールド	募金ギフト
武田の杜鳥獣センター	施設内で募金箱設置
大和ハウス工業株式会社	社員による募金
財団法人東京動物園協会	施設内で募金箱設置
株式会社虎屋	各店舗内で募金箱設置
社団法人日本音楽事業者協会	ガレーセールによる募金
日本デスコ株式会社	チャリティくじ販売
株式会社ピート 直営店	各店舗内で募金箱設置
PFU労働組合「ふれあいFund」	組合員による募金
丸二倉庫株式会社	社員による募金
三井化学株式会社「チビットワンコイン」	社員による募金
株式会社三菱東京UFJ銀行社会貢献基金	社員による募金
三菱UFJ証券株式会社	社員による募金
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	施設内で募金箱設置
森永乳業株式会社「森乳スマイル倶楽部」	社員による募金
ラブ・ジ・アース実行委員会	イベント内でのチャリティオークションの開催
リンクシェア・ジャパン株式会社	チャリティアフィリエイト募金
横浜ゴム株式会社	チャリティコンサートでの募金活動

2008年4月1日～2009年3月31日入金実績 50音順 敬称略

法人からのご支援について

WWFは企業の環境問題への取組が不可欠として、事業活動に対しさまざまな働きかけを行なっていますが、同時に企業からの資金的支援もWWFのさまざまな活動を推進する上で不可欠と位置づけ、色々な方法で寄付を頂いています。

2008年度：新入会員法人

株式会社SKH	セルレ株式会社	富士通株式会社
株式会社NIコンサルティング	株式会社東洋システム	財団法人不審菴
株式会社エフステージ	株式会社日陸	MED Communications株式会社
株式会社オリゾンティ	株式会社日本演出	
サンライズパブリケーション株式会社	パリオセキュア・ネットワークス株式会社	

50音順 敬称略

会員期間20年以上の法人

株式会社朝日新聞社	第一三共株式会社	株式会社博報堂
荏原エンジニアリングサービス株式会社	株式会社ツムラ	富士ゼロックス株式会社
株式会社荏原シンプ	株式会社電通	株式会社みずほフィナンシャルグループ
株式会社荏原製作所	財団法人東京動物園協会	株式会社三田工業所
大阪ガス株式会社	凸版印刷株式会社	三井住友海上火災保険株式会社
オリンパス株式会社	株式会社永谷園	三菱地所株式会社
清水建設株式会社	日本ガイシ株式会社	三菱商事株式会社
住友商事株式会社	日本製紙株式会社	三菱製紙株式会社
株式会社瀬津雅陶堂	野村證券株式会社	横浜ゴム株式会社

50音順 敬称略

2008年度に100万円(相当)以上のご支援を頂いた法人・団体

アスクール株式会社	売上寄付など
アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)	マッチング寄付
株式会社アレフ	法人会費
財団法人イオン環境財団	マッチング寄付
株式会社伊勢丹	チャリティイベント
伊藤忠都市開発株式会社	プロジェクトスポンサー
株式会社エコリカ	売上寄付など
エーザイ株式会社	法人会費など
株式会社エニシル	寄付ギフト
エヌ・ティ・ティ東京電話帳株式会社	寄付キャンペーン
株式会社荏原製作所	法人会費
エレコム株式会社	売上寄付
岡崎信用金庫	エコ定期預金
オリンパス株式会社	カレンダー提供など
川辺 株式会社	売上寄付
菊水酒造株式会社	商品プロモーションなど
有限会社グッドスピード	コラボ記念
株式会社クリエイティブヨーコ	売上寄付
株式会社 資生堂	マッチング寄付など
實守紙業株式会社/日本製紙株式会社/日本紙通商株式会社	現物寄付
清水建設株式会社	法人会費など
新光投信株式会社	エコファンド
宗教法人真如苑	プロジェクトスポンサー
住友生命保険相互会社	プロジェクトスポンサーなど
セールスフォース・ドットコム ファンデーション(株式会社セールスフォース・ドットコム)	情報管理サービス提供
全国労働者共済生活協同組合連合会	クリック募金など
ソフトバンクモバイル株式会社	プロジェクトスポンサー

第一三共株式会社	クリック募金など
大和建鉄株式会社	法人会費
月島倉庫株式会社	一般寄付
株式会社帝国ホテル	ポイント寄付
株式会社東横イン	法人会費
トヨタ自動車株式会社	法人会費
株式会社虎屋	売上寄付
株式会社日経シー・エヌ・ビー・シー	寄付キャンペーン
日本郵船株式会社	法人会費
野村ホールディングス株式会社	リサイクル寄付
パナソニック株式会社	プロジェクトスポンサーなど
有限会社フィセル	売上寄付
フェリシモ基金	売上寄付
福島民友新聞株式会社	民友環境基金の一環として
フジサンケイビジネスアイ	地球環境大賞開催記念など
富士ゼロックス株式会社	法人会費など
株式会社フライングドッグ	売上寄付
株式会社プリヂストーン	プロジェクトスポンサー
株式会社マルタ	一般寄付
丸紅株式会社	プロジェクトスポンサーなど
株式会社ミスターマックス	売上寄付など
三井住友カード株式会社	ポイント寄付
株式会社三越	チャリティイベントなど
三菱商事株式会社	法人会費など
株式会社三菱東京UFJ銀行	マッチング寄付
森ビル株式会社	法人会費
ヤフー株式会社	インターネット募金による寄付
横浜ゴム株式会社	チャリティイベントなど
ライティング・オブジェ制作委員会（株式会社イルミナティ）	チャリティオークション
リンベル株式会社	寄付ギフト

2008年4月1日～2009年3月31日 50音順 敬称略

パンダロゴマーク付き商品

ロゴマークが付いた商品からは、ロゴマークの使用料としてWWFの活動資金が発生しています。

2008年度の販売商品

株式会社アパハウスインターナショナル	Tシャツ
アピカ株式会社	学習帳
ガンホー・ワークス株式会社	ゲームソフト
株式会社遠東商会	トートバッグ
金本徳 株式会社	タオル
カバヤ食品株式会社	チョコレートスナック
有限会社グッドスピード	カジュアルウェアなど
熊野油脂株式会社	洗剤
株式会社グリーティングライフ	紙文具
サンスター文具株式会社	文具
株式会社トンボ鉛筆	鉛筆
服部製紙株式会社	トイレットペーパーなど
株式会社ビオウビィ・ウィン	Tシャツ
ぺんてる株式会社	画材、ペン類など
株式会社ロイヤルコペンハーゲンジャパン	陶器置物
株式会社ワールド	風呂敷

50音順 敬称略

法人によるご支援の事例

◎ ポイントカードからのご寄付の取組み

アメリカに本社を置くアウトドア用品メーカーのパタゴニアが提唱する「1% for the Planet」は、売上の1%を自然環境保全活動のために寄付する企業の同盟ですが、日本企業も16社（2009年3月末現在）が参加しています。その一つで、神奈川県小田原周辺で化粧品・雑貨販売業を営まれている株式会社マルタでは、ポイントカードによるお客様へのノベルティの代わりに、WWFへ寄付する取組みを始められました。店頭ではWWFのリーフレット等も設置していただき、広報面でも積極的に活動していただいています。



◎ 環境広告キャンペーンからのご支援

ビジネス・経済専門のテレビチャンネル「日経CNBC」では、2008年6月から開始された環境広告キャンペーン「Save Earthキャンペーン」で、広告主からの協賛料金の10%をWWFへの寄付とする活動を展開していただいています。洞爺湖サミットが開催された2008年は、これまで以上に環境活動が企業の広告テーマとなりましたが、それを企業アピールに終わらせず、WWFへの寄付によって実際の自然保護活動に結びつけた今までにない取組みです。メディアとしてのCSR活動のあり方の一つと言えます。



募金によるご協力事例

◎ チャリティコンサートを通して募金にご協力

神奈川県横浜市の武蔵工業大学横浜キャンパス 学生団体連合会横浜分室の皆さんが、2008年12月に行なわれた第11回「武蔵工大YC国際交流チャリティコンサート」を通して、募金活動にご協力くださいました。また、会場ではWWFのパネル展示にもご協力いただきました。パネルについて、スタッフの方が熱心にご説明をしてくださり、WWFのパンフレットを設置・配布していただいたお陰で、ご来場者の皆さまからWWFの活動や自然保護に対するご関心をお寄せいただいたようです。



©武蔵工業大学横浜キャンパス

募金協力のレポートは、ウェブサイトでより詳しくご紹介しています。

<http://www.wwf.or.jp/hiroba/>

広報的なご支援について

地球環境問題とWWFの活動を広く一般に普及するには、メディアや企業の広報力が大きな助けとなります。WWFでは、皆さまからいただいたご寄付による資金のほとんどを、自然保護活動に充てるため、広告宣伝費は非常に限られています。そのため、日ごろから、企業やメディアによる広報的なご支援が欠かせません。2008年度も、チャリティーキャンペーンや広告スペースの無償提供など、多岐にわたる広報的なご支援をいただきました。

2008年度に500万円以上のご寄付に相当する広報的なご支援を頂いた事例

※()内は企業名

◎ WWFチャリティーキャンペーンとWWF展(三越伊勢丹ホールディングス)

2008年4月1日～4月7日、三越伊勢丹ホールディングス誕生記念として、全国32店舗においてWWFチャリティーキャンペーンを実施いただきました。多くのお客様からご賛同いただいた結果、2,000万円以上のご寄付が集まりました。期間中、日本橋三越本店と伊勢丹新宿店において、『～KISS THE EARTH 地球のために 子供たちのために～ 美しい地球・守りたい命とWWF展』が同時開催されました。同展では、地球の現状とWWFの長年の活動が展示され、累計2万人以上の方々にご来場いただきました。このような展示会は、チャリティー金のご寄付とともに、WWFにとっては、大変大きな広報的なご支援となりました。



◎ WWF広告掲出(株式会社NTTアド)

2009年3月23日から1週間にわたり、都内の主要な駅や動物園などで、WWFの広告ポスターが掲出されました。念願の駅貼りポスター広告は、株式会社NTTアドの多大なご協力によって実現しました。制作にあたっては、国内外で活躍するフォトグラファーの本城直季氏が作品を無償でご提供くださり、素晴らしいポスターができました。制作に携わってくださったクリエイター一人一人のご協力に加え、NTTアドの企業としての広告スペース提供というご支援があって、初めて実現した広告掲出です。多くの方々のご支援によって、掲出された広告は、大変話題になりました。

各種助成金について

2008年度は下記の助成金などの交付を受けて、自然保護活動に役立てました。

名称	交付者
サンゴ礁モニタリング調査事業補助金	石垣市
自然保護助成基金	財団法人自然保護助成基金
自然保護基金	公益信託日本経団連
公益法人助成事業	財団法人日本宝くじ協会

50音順 敬称略

通信販売「パンダショップ」について

WWFの通信販売は、環境に配慮した製品を紹介し、販売収益を全てWWFの自然保護活動に役立てています。商品の購入を通じて気軽に自然保護を支援できる方法として、たくさんの方にご利用いただいています。

2008年度は、カタログとインターネットによる通信販売で約2億500万円を売上げ、通販経費を差し引いた約3,700万円(対売上18%)を活動資金に充当しました。主な企画商品は、3名のアーティストから無償提供を受けたデザインの「アーティスト・マイボトル」、オーガニックコットンのTシャツ、中国・四川大地震の復興を支援する「パンダタンブラー」などです。こうしたパンダショップ独自の企画商品がヒットしたことにより、数年ぶりに売上げが2億円を超えました。タンブラーの販売による中国への支援金は約100万円になりました。商品が雑誌で紹介されたことで新規の購入者が増えたり、イベントや積極的な会員獲得活動によって、顧客基盤が拡大したことも売上げが回復した要因です。

今後は、販売収益による資金調達を目指す以上に、環境への負荷を少しずつでも減らしていけるような消費のあり方を、通信販売を通じて提案することをより重要な課題として、企画を考案してゆきたいと考えています。



アーティストとのコラボレーションによる
マイボトル3点

大ヒットとなった
「花柄パンダTシャツ」

温かい飲み物を注ぐと柄が変わる
「パンダタンブラー」

WWFジャパン事務局内部の管理について

WWFジャパン事務局は、1993年以降新日本監査法人の監査を受け、適正な会計処理を行なっています。2008年度は公益財団法人移行の措置をとるため、新たな公益法人会計のしくみを導入しました。

また、活動を支えてくださる皆様の個人情報を保護するため、個人情報を適切・安全に取り扱う施策を実施しております。2008年度はプライバシーマーク認定を得ることができました。

さらに、林産物(紙や木材製品など)調達の2008年度目標は、森林保全に配慮したFSC認証紙の占める割合を、全使用量の90%と設定しました。その結果、99%に達し、当法人が使用する紙のほぼすべてを信頼できる出所のものとすることができました。また、事務所の資源使用量と温室効果ガス排出量を算出し、一部の温室効果ガス排出量については、ゴールドスタンダードクレジットを購入してオフセット(相殺)いたしました。

今後も、引き続き、皆様への説明責任を果たし、信頼を維持できるよう、透明性の高い組織運営をまいります。



財団法人 世界自然保護基金ジャパン 役員等名簿

(2009年6月26日現在)

名誉総裁	秋篠宮文仁親王殿下	
会長・理事	徳川 恒孝	(財)徳川記念財団 理事長
副会長・理事	畠山 向子	(財)畠山記念館 館長
//	島津 久永	(財)山階鳥類研究所 理事長
常任理事	岩槻 邦男	兵庫県立人と自然の博物館 館長
//	大西 孝夫	元 環境事務次官
//	川那部 浩哉	琵琶湖博物館 館長
//	黒河内 康	元 特命全権大使
理事	池田 弘一	アサヒビール(株) 代表取締役会長
//	佐々木 元	日本電気(株) 代表取締役会長
//	田畑 貞壽	(財)日本自然保護協会 理事長
//	豊田 章一郎	トヨタ自動車(株) 取締役名誉会長
//	中川 志郎	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 名誉館長
//	成田 純治	(株)博報堂 代表取締役社長
//	林 良博	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
//	日枝 久	(株)フジテレビジョン 代表取締役会長
//	福地 茂雄	日本放送協会(NHK) 会長
//	福澤 武	三菱地所(株) 相談役
//	榎原 稔	三菱商事(株) 相談役
//	柳生 博	(財)日本野鳥の会 会長
//	矢後 夏乃助	(株)荏原製作所 代表取締役社長
//	山野 正義	(学)山野学苑 理事長・苑長
監事	奈良 久彌	(株)三菱総合研究所 特別顧問
//	牧岡 晃	元 勤友商事(株) 社長
評議員	愛知 和男	(社)日本ナショナル・トラスト協会 会長
//	伊藤 宏	みずほフィナンシャルグループ瑞朋会 理事
//	猪野 博行	東京電力(株) 取締役副社長
//	岩合 光昭	動物写真家
//	岡本 寛志	(財)自然保護助成基金 専務理事
//	加藤 登紀子	歌手 (WWF)パンダ大使・UNEP親善大使
//	神林 章夫	財団法人神林留学生奨学会 理事長
//	小宮 輝之	東京都恩賜上野動物園 園長
//	島袋 重信	元 沖縄県環境保健部参事監
//	末吉 竹二郎	国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP FI) 特別顧問
//	田代 和治	元 東京都恩賜上野動物園 園長
//	田中 光常	動物写真家
//	縄野 克彦	(株)日本航空 代表取締役副社長
//	野村 哲也	清水建設(株) 代表取締役会長
//	原 直史	ソニー(株) コーポレート・エグゼクティブ SVP
//	日高 敏隆	京都大学 名誉教授
//	星野 真	元 (財)世界自然保護基金ジャパン 事務局長
//	堀 由紀子	(株)江ノ島マリンコーポレーション 代表取締役会長
//	前田 忠昭	東京ガス(株) 代表取締役副社長執行役員
//	増井 光子	よこはま動物園(ズーラシア) 園長
//	三浦 愼悟	早稲田大学人間科学学術院 教授
//	目崎 茂和	南山大学 教授
//	森 稔	森ビル(株) 代表取締役社長
//	森下 洋一	パナソニック(株) 相談役
//	山崎 薫	(学)ヤマザキ学園 理事長
//	山崎 富治	山種美術館 名誉館長
顧問	黒柳 徹子	俳優
//	さかなクン	東京海洋大学客員准教授
事務局長	樋口 隆昌	

注：ここに記載されている役員等は、事務局長 樋口 隆昌以外は非常勤・無報酬です。

世界の自然を守るWWF

WWFは、約100カ国で活動している環境保全団体です。地球上の生物多様性を守り、人の暮らしが自然環境や野生生物に与える負荷を小さくすることによって、人と自然が調和して生きられる未来をめざしています。

ご支援よろしく申し上げます

WWFジャパンはWWFネットワークの一員として、国内外の自然保護活動に取り組んでいます。会費・寄付は下記の方法にてご入金いただけます。どなたでも参加できる自然保護。ご支援をよろしく申し上げます。

個人会員：月額500円から

法人会員：年額一口20万円

寄 付：特に定額はありませぬ

◎お電話一本でご入会、ご寄付いただけます
TEL：03-3769-1241（クレジットカード寄付）

◎郵便振替
口座番号：00100-4-95257
加入者名：WWF Japan

◎サイト上で手続きいただけます
<http://www.wwf.or.jp/join>

お問い合わせ

ご支援やご入会についてのお問合せは、WWFジャパン会員係まで。

TEL：03-3769-1241 E-mail：hello@wwf.or.jp

WWFジャパン

財団法人 世界自然保護基金ジャパン

〒105-0014

東京都港区芝3-1-14 日本生命赤羽橋ビル6F

TEL：03-3769-1711（代表）

03-3769-1722（PANDA SHOP）

03-3769-1712（法人／募金）

FAX：03-3769-1717

<http://www.wwf.or.jp/>

© 1986 PANDA symbol WWF-World Wide Fund for Nature (formerly World Wildlife Fund)
® "WWF" and "living planet" are WWF Registered Trademarks

